

静岡県漁業協同組合連合会

1009 静岡市追手町9-18
14.9.6 ☎ 054-254-6011
編集・発行 = 指導部漁政課

1. 駿河湾深層水利用者協議会が発足

県が行っている駿河湾深層水の試験給水が、11月から有料化され本格給水が開始されるのを前にして、利活用する企業、団体、事業者69会員で構成された「駿河湾深層水利用者協議会」の設立総会が去る8月27日県水産試験場で開催されました。

総会では、八木健治県議会議員、青山豊久県農業水産部水産総室長、戸本隆雄焼津市長(三野経済部長代読)の挨拶に続いて協議会の規約、今年度の事業計画・予算などを承認、役員を選出を行いました。

その結果、会長には村松善八氏(県水産加工連会長)、副会長には原剛三(本会会長)、大橋昭生氏(焼津商工会議所海洋深層水事業化部会長)、富永昌良氏(県こだわりの味協同組合代表理事)の3氏を選出しました。

県では、深層水の確立と類似品との差別化を図るため、一定レベルの品質にある海洋深層水利用商品に付ける駿河湾深層水ブランドマークを先に制定し、深層水利用企業で構成した協議会が同ブランドマーク使用の審査・許諾を行い管理していくことにしています。

また、県ではこのブランドマークの商標登録を行い、このマークを協議会に無償貸与する形を取り、協議会では理事会の下に許諾基準設定委員会を設置するなどして、県が示した許諾基準の基本的考え方に基づき、ブランドマークの使用承認基準を作成し、県側の承認を得て同基準を決定して行くことにしています。

平成14年度の事業計画では、ブランドマークのPR、ブランドマーク商品の販路拡大、承認商品や無断使用の監視、深層水関連情報の提供を行うことにしています。なお、協議会事務局は焼津市の県水産加工連内に置かれています。

2. 県内海面漁業事業者数 3,000 を割る

関東農政局静岡統計事務所がまとめた2001年での海面漁業事業者数は、前年に比べ180(5.8%)少ない2,907で調査開始以来最低を更新しました。

全体の90%を占める釣り、刺し網、採貝などを行う沿岸漁業の事業者数が2,556と減少し、特に動力船5トン未満層の休廃業が多い結果となっています。

シラス船曳網漁業を中心とする中小漁業の事業者数は、10少ない1339となりました。

大中型まき網、遠洋、近海かつおまぐろ漁業などの大規模漁業事業者は12と前年より1増加しました。

漁船隻数は3,165隻で前年に比べ124隻(3.8%)減少し、トン数規模別では5トン未満が全体の66%を占め1,781隻、5トン～10トンが717隻、10トン以上が同8%を占める214隻となっ

ています。なお、同事務所ではこの減少傾向に対し、「比較的簡単で高齢者が多い釣り漁業で跡継ぎがないなどの理由から廃業するケースが多く、第1次産業の特徴が表れている」とみえています。

3. 舞阪でウナギ供養祭開催される

浜名湖養魚漁協(野寄喜弘組合長)では、去る8月24日舞阪町乙女園の魚藍観音前でウナギ供養祭を浜名湖周辺養鰻業者や魚問屋関係者約250人が参加する中で開催しました。

供養祭は、ウナギ観音の異名を持つ魚藍観音が建てられた昭和12年から毎年8月24日に営まれているもので、僧侶の読経の後、出席者全員が祭壇の前で焼香し、手を合わせウナギに感謝し商売繁盛を祈願しました。

また、式典終了後、野寄組合長、伊藤舞阪町長らが祭壇に供えたウナギ約500匹を次々と浜名湖に放流し、業界の一層の発展を祈りました。

なお、9月17日丸榛吉田うなぎ漁協、9月21日中遠養鰻漁協でも同様にウナギ供養祭が夫々開催されます。

4. 富士宮でニジマス祭開催される

ニジマス生産量日本一を誇る富士宮市のニジマス祭が、去る8月24日が同市猪之頭の県水産試験場富士養鱒場で開かれ家族づれで終日にぎわいました。

この祭は一時休止となっていました。平成7年に「地元の人に愛されてこそ本当の特産品」と復活し、富士養鱒漁協や県水産試験場富士養鱒場職員等で作る実行委員会が主体となり、毎年ニジマスに関係したコーナーが設けられ運営されています。

今年の人気コーナーは、ニジマスのつかみ取りと釣りで、水槽の中を逃げ回る魚を追い掛け回したり、池の周りに竿を並べ、面白いように釣れる獲物に歓声が上がっていました。

また、「食」コーナーでは町おこしに一役買っている焼そばに続けとばかりにニジマスを使った料理がずらりと並びました。

その他、ニジマスの甘露煮や竜田揚げを具にしたそばやラーメンは珍しさも手伝い、昼時は長い行列ができていました。

5. 県、TAC(漁獲可能量) 7月末漁獲実績を発表

県では、この程TAC対象5魚種の7月末現在の漁獲実績を発表しました。

それによると、マイワシがTAC数量10,000トンに対し177トンで消化率1.8%、マサバ及びゴマサバは同8,000トンに対し2,068トンで消化率26%、またTAC数量が若干量の魚種では、サンマ213トン、マアジ1,797トン、スルメイカ236トンとなりました。

6. 諸会議・日程(9月10日(火)～9月23日(月))

- 既報分省略 -

9月10日 県ふぐ漁組合連合会 = 三県協定会議 (浜名漁協)

9月10日～12日 共水連県事務所 = 14年度前期県共済基幹職員養成講座(ベルパレス鷹匠)

9月13日 県漁連・油濁基金 = 油汚染防除指導者養成講習会 (焼津漁協)